

高级日语教学参考

总主编 吴侃

W 上海外语教育出版社
外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS
www.sflep.com

第1册

高级日语教学参考



叶琳
侃琳岩俊
吴叶马沈
总主编
主 编
编者

第1册

W 上海外语教育出版社
SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

图书在版编目 (CIP) 数据

高级日语教学参考. 第1册 / 吴侃总主编; 叶琳主编; 马岩等编.
—上海: 上海外语教育出版社, 2012

ISBN 978-7-5446-2475-6

I. ①高… II. ①吴… ②叶… ③马… III. ①日语—高等学校—
教学参考资料 IV. ①H36

中国版本图书馆CIP数据核字 (2011) 第194096号

出版发行: **上海外语教育出版社**

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 朱 丹

印 刷: 上海信老印刷厂
开 本: 889×1240 1/32 印张 10.75 字数 304千字
版 次: 2012 年 4 月第 1 版 2012 年 4 月第 1 次印刷
印 数: 2 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-2475-6 / H · 1154

定 价: 20.00 元

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

前言

《高级日语》自 2005 年 4 册全部出齐后，得到了广泛采用。现在特推出教学参考书，以便更好地服务使用者。

《高级日语》是作为日本国际交流基金的“日本語教育”项目的成果，与日本著名日语研究及日语教育专家村木新次郎教授合作完成。在项目进行期间，笔者与村木教授一起探讨了“高级日语”所应该包含的内容及达到的目标。最终确定，内容应该全面反映日本的社会文化，介绍日本社会、日本人的思维及行为方式的方方面面。题材的选择应该广泛，包括随笔、评论、报道、小说、相声、剧本等等。难度确定为：最初部分与国内大部分中级日语教材衔接，而最后一课达到日本高考的“国语”考题的难度，中间的课文阶梯式排列。按照这一想法，由村木教授组织了一批日语研究者（包括硕士生、博士生）收集课文素材。该项目在日本的共同研究阶段结束后，再由国内组织多校的资深学者进行编写，所有日语内容均由村木教授最后审核。

从出版后的情况及反馈的信息综合来看，当初的目标基本达到，未发现教材中存在明显错误的“硬伤”。但对于这样一部内容广泛、全面，具有足够深度的教材，要想吃透其内容并教授给学生，无疑对教学者是一个不小的挑战。

此次编写的这部教参，主要就课文内容、表达等各个方面加上了注释，并全文翻译课文，以便于教学者能够更加容易地、准确地理解课文，提高教学的准确性和教学效果。注释包括内容和语言方面，尤其是对于中国人理解起来难度较大的某些口语化的表达，需要与语境相关联考理解的表达，

以及含有古典语法的表达等，尽量做了详细的注释。课文翻译不考虑翻译技巧，尽量直译，以有助于理解课文原文句子。此外，编写了“课文背景”，增加了部分“扩展阅读”，以加深对与课文内容有关的日本社会文化内容的理解。并且加入了一些“课外阅读”和“扩展练习”，供任课教师视需要选择使用。

吴 侃

2012.1

目 录

第一課	世界の中の日本語	1
第二課	ひとつ屋根の下で	23
第三課	発話の目的と発話されたことばの形	46
单元测试 1		68
第四課	日本種々相	74
第五課	黄色い雨ガッパと黒い肌	99
第六課	何故? と問い、自分で考える	117
单元测试 2		141
第七課	当世学生「本離れ」気質	147
第八課	日本人とコミュニケーション——対人恐怖の 国民性	168
第九課	中流なんかもういない、不平等サービス 大繁盛	189
单元测试 3		218
第十課	豊かさゆえの病がある	225
第十一課	天声人語	252
第十二課	フェスティナ・レンテ	275
单元测试 4		299
扩展练习及单元测试答案		305
录音文字		315

第一課

世界の中の日本語

1 作者紹介

梅棹 忠夫（うめさお ただお）（1920－2010）。日本の生態学者、民族学者。国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授、京都大学名誉教授。理学博士（京都大学、1961）。日本における文化人類学のパイオニアであり、梅棹文明学とも称されるユニークな文明論を展開し、多方面に多くの影響を与えている人物。京大今西錦司門下の一人。生態学が出発点であったが、動物社会学を経て民族学（文化人類学）、比較文明論に研究の中心を移す。

著名な『文明の生態史観』の他、数理生態学の先駆者（オタマジャクシの群れ形成の数理）でもあり、湯川秀樹（ゆかわ ひでき）門下の寺本英（てらもと えい）が展開した。さらに、宗教のウィルス説をとなえ、思想・概念の伝播、精神形成を論じた。その後も、宗教ウィルス説を展開し、後継研究もあり一定の影響を及ぼす。宗教ウィルス説は、遷移（せんい）理論を柱にする文明の生態史観の基礎のひとつである。

2 课文背景

異文化を背景にもつ人々との共生のためには、異なる国々の人たちの間で共通語を使ってコミュニケーションするのがますます重要だ。

世界には普遍的な共通語というものは実に存在していない。そのかわりに成り立っているのがリングア・フランカというある地域の共通語だ。

グローバル化とインターネットのせい、言語の世界も新しい世紀に入り、日本語も日本人だけの国語ではなくなった。日本への留学生は十万人、海外の百三十カ国で三百万人が日本語を学習して、会話をしたりしている。日本人はどうしても日本語を自分の私有財産として完全に掌握し、コントロールすることができなくなり、もともとの「国語」は「日本語」へと変容している。

また、日本は島国で、他国と海で隔てられているため、自分たちが使っている言葉に霊力が宿っていて、他国の人々にはどうも理解されないものだと思っている向きがある。そして、日本の精神を「国語」と堅く結びつけ、国家と言語とが一体化される意識も強い。

言語はたんなる伝達的手段ではなく、思考の基礎であり、歴史や文化、伝統、思想信条や情緒、感性が込められて遠い過去から伝えられ、未来へ引き継がなければならないものである。日本語が国際化することによって、「国語」意識はいよいよ相対化され、日本語の変容はいつそう進むかもしれない。

3 课文注释

3.1 「それでタイ人と日本人とのあいだで『英語でいきましょう』とか」(P1、本文下から7行目)

「いきましょう」の「いく」の語義の一つに、「ある方法・状態で、動作を開始する」がある。「英語でいきましょう」というのは、英語で話をしましょうということだ。本文では、タイ人と日本人の間で、リングア、フランカとしての英語を使ってコミュニケーションするという意味を表わす。

3.2 「リングア・フランカとは、そういうことなのである」(P2、本文6行目)

「リングア・フランカ」は異なる言語を使う者の間で意思疎通のために用いられる第三の言語だ。異なる国々の人たちの間で使う共通語と

は決して一つの民族の私有財産ではなく、英語、フランス語と同じように世界のかなりの人々の共有物である。

3.3 「オランダのヘーシンの出現によって、独占はやぶれた」

(P2、本文 12 行目)

アントン・ヘーシンク (Anthonius Geesink, 1934 年 - 2010 年) は、オランダ・ユトレヒト出身の柔道家、プロレスラーで、身長が 198cm だ。1961 年の第 3 回世界柔道選手権大会では神永昭夫、準決勝で古賀武、決勝では前大会覇者の曽根康治を袈裟固で破って外国人選手では初となる優勝を果たした。1964 年に行われた東京オリンピックでは、無差別級決勝戦で日本代表の神永昭夫を 9 分 22 秒 (当時、試合時間は 10 分だった) 袈裟固一本で下して金メダルを獲得した。いままでの柔道史において覇者となったのはすべて日本人だった。ヘーシンの出現によって日本人としての柔道独占は破滅した。

3.4 「文化というものは、そもそもそういうものである」 (P2、本文

20 行目)

日本文化のさまざまな要素の代表としての柔道も寿司も国際化してから、やがてその起源がどこかは忘れられてしまう。一つの文化要素がもとのコンテクストから切り離されて、ほかの文化の間を漂流しているうちに、その起源がどこだったかということは忘れ去られるのである。

3.5 「外国人のつかう奇妙な日本語に寛容でなければならない」

(P3、本文 2 行目)

「奇妙」の語義の一つに、「合理的でない、不思議な様子だ」がある。本文では、外国人に使われた日本語は日本語らしい日本語ではなくて、ふつう日本人の用例と違って変なものだ。日本人はふだん見聞した外国人の使う日本語を、必ず大目に見るべきだ。

3.6 「日本人は国語問題については、戦前から度々の激しい論争を経験してきた」 (P3、本文 9 行目)」

幕末・明治以来の国字国語についての議論が活発になった。国字改

良論(漢字節減論・かな専用論・ローマ字専用論)および新字体・現代かなづかいの支持論がしばしばある。たとえば文明開化時代に西周のような大知識人が、国語をローマ字で書くべしという論を提唱した。後の文部大臣森有礼は日本語を廃止して英語を日本の国語にすることを進めた。また、志賀直哉がフランス語を日本の国語にすべきだという論も提出した。というのは、日本が西欧の植民地にされる恐怖、言い換えれば「近代化」への強迫観念が時代の精神を支配していたからだ。

4 课文翻译

第一課 世界中的日语

梅棹 忠夫

现在，世界上并不存在还有广泛的世界语。虽然英语、法语、西班牙语在一定程度上都是被广泛使用的语言，但是，这其中的任何一种语言都没有覆盖到全世界。应该说，目前的现状是其他诸种语言作为世界上某个地区的通用语，也就是媒介语正在广泛使用着。例如，苏联的俄语，中国以及东南亚地区的汉语，特别是所谓的普通话，还有东非地区的斯瓦希里语等等，都是媒介语的范例。这些语言作为某一范围地区内的通用语被人们使用着。日语的现状就是日语已经开始成为这种部分的通用语了。在东亚、东南亚、西太平洋的一些地区，日语正开始成为人们相互表达意思的通用语之一。这种情况越成为可能，学习日语的人就越增加，日语就会开始普及起来。

在此重要的是，这种部分地区的通用语并不是以这种语言为母语的人和不以这种语言为母语的人之间沟通思想的语言。以日语为例，并不是说日本人和中国人、日本人和泰国人、日本人和澳大利亚人之间用日语交流。当然，这种情况也许存在，但重要的是，比如说泰国人和澳大利亚人之间使用日语进行交谈。所谓国际语就是这样的。

我们和外国人说话的时候，首先会互相打听彼此用什么语言可以

沟通。因此，自然就会是这样：泰国人和日本人之间说“我们用英语交谈吧”，日本人和意大利人之间说“我们都懂法语”等等。在此所进行的不是英语国民和非英语国民、法语国民和非法语国民之间的交流。英语和法语在这种意义上就是在国际化了。日语成了国际语就意味着日语也具有了这种用于外国人之间的会话的可能性。

由此可以引出一个非常重要的结论。那就是日语已经渐渐地不再是日本民族的私有财产了。我们现在不能再把日语当作我们的私有物品独自占有了。也就是说，我们必须把日语作为其他民族的共有财产加以提供。

英语和法语在很久以前就已经是这样的了。英语不是英国人的私有财产。法语也同样。它们是世界上相当一部分的人的公共财产。所谓媒介语言就是这样的一种语言。

同样的事情不仅仅发生在日语上，也开始发生在日本文化的种种要素上。例如，柔道原本是日本固有的一项运动。人们曾经觉得只有这个才是日本人的独有财产。但是，随着柔道在欧洲等地的广泛普及，柔道也被加入到奥运会比赛项目之中了。并且，开始的时候，日本选手还在奥运会上保持着优势，然而荷兰选手黑辛科的出现却打破了日本在这一项目上的垄断。柔道国际化了。

在衣食住行方面也有同样的现象。寿司现在也不是日本人的独有食品了。事实上，寿司正发生着多种多样的变化，在美国国内相当流行。据说仅加利福尼亚一个州，寿司店就有几千家。去吃寿司的人当然大多数不是日本人。寿司早已不是日本人的私有财产了。

柔道也好寿司也好，作为国际性的共有财产，在世界多种文明的长河里漂流的过程中，最终连自己的起源在哪里都被遗忘了，这样的时代也许即将到来。所谓的文化其实就是这样的。一种文化要素从原来的脉络上脱离之后，将会一边在其他文化的长河中漂流，一边获得国际性或者跨文化性。或许日语正处在这种漂流之旅的起航期。至少，可以认为有几个日语词汇已经开始走上了这条道路。

由此或许能引出下面另一个重要的结论：我们正渐渐不能把日语作为我们自己的私有财产加以完全掌握和控制。在不以日语为母语的

人之间所进行的日语对话，有时在我们听来，也许是一种非常怪异的语言。或许外国人写的日语在我们看来是十分不完整的。事实上，我们经常看到听到这样的实例。对于我们这些以日语的语言美为骄傲的日本人来说，这也许是“令人厌恶的日语”。

但是，今后我们不得不忍受这种“令人厌恶的日语”。既然我们已经不能主张私有财产的垄断权，那么就必须对那种外国人使用的奇怪的日语表示宽容。对于不自然的表达，奇怪的措词，我们必须努力理解。严格地一一订正它，使它与日本人的用例一致，这样的努力当然是必要的，但是会成功到何种程度呢？或许我们在某种程度上必须妥协。所谓的国际化就是如此。对于想要严格保持日语传统的人来说，这或许是难以忍受的，但是在某些方面必须抱达观的态度。

日本人关于国语问题，在战前就经历了多次激烈的争论。但是，这种日语国际化的现实，或许会带来国语问题里从来没看到过的新观点。以往都是从国语问题是日本文化的问题、是纯粹的日本国内的问题这种观点出发来论述一切的。然而，面对日语国际化的事实，也许（我们）不得不重新探讨日语的国语问题了。

在日本（人们）对“国语”的意识十分强烈。在国语和外语的对比中，国语被绝对化了。但是，这种意识应该相对化到这样的程度，即认为日语是同英语、汉语、西班牙语等相并列的日语。（我们）要意识到日语不是独一无二的语言，只不过是多种语言中的一种。然而，也许这种意识的相对化很困难。这种相对主义确实是国际化的、开明的、进步的。但是，在现实中日语存在着与此完全相反的精神。持有要坚守“国语精髓”这一绝对主义思想的人不在少数。这是因为日本是一个“语言灵力兴盛之邦”，是一个“神道”发挥作用的國家。在国内，如何调解这样的对立思想并使其达成一致呢？这才是一个问题。

随着国际化的进程，日语或多或少都不得不发生变化。想要一直保持这种纯粹性恐怕很难。自明治时期以来，日语就已经产生了巨大的变化。可以说，词汇变得丰富了，而语法和表达被简化，规律性加强了。随着日语的国际化，这种趋势或许会进一步增强。反言之，也许日语的国际化会给日语的近代化带来巨大的契机。期待这种来自外

部的力量成为日语变革的能量，难道不对吗？

（梅棹忠夫《梅棹忠夫著作集》中央公论社刊）

5 练习答案

（一）

1. 大事な用件を思い出した
2. 行かないわけにもいかない
3. ほかの人より遅くなってしまった
4. 一向に成績は上がらない
5. 話を聞いたことはあります
6. よくはわかりません
7. ちょっとすみません
8. おかしかった
9. 知っていた
10. いろいろと迷った末頼んでみた

（二）

1. b 2. c 3. d 4. a 5. b 6. b 7. a 8. d 9. b 10. b

（三）

1. 日本語が地域共通語となり、日本語を母語としない人々同士のコミュニケーションの手段として用いられるということ。
2. オリンピック種目に加えられ、外国選手が優勝するようになったこと。
3. 元の文化から切り離され、異なった文化の人々の間で流通すること。
4. 一般に言われるのは、あいまい・非断定などを含めた婉曲表現、敬語など人間関係を配慮した表現の豊富さ、自然に関する表現の豊かさ、察しを生かした省略など。
5. 柔道やすしの例にも認められるように、文化要素というのは、

ほかの文化の間を漂流していくうちに、国際性を獲得してゆくものである。日本語も、そういった文化要素の一つであると考えられるから。

6. 日本語だけが世界で唯一のすばらしい言語だと考えること。

(四)

1. 昨日の新聞によれば、今なお、かなりの人が、車にチャイルド・シートを着用していないという。
2. その意見について個人的には理解できるが、クラスの代表としてはそれに賛成しがたい。
3. ここまで来て、従来のやり方はだめだということだけは分かってきた。新しい方法を探っていくことに成功への鍵がある。
4. 研究開発はもちろん時間がかかる。粘り強さこそが成功への道だ。
5. 彼はあの約束をとつく昔に忘れてしまったようだ。約束がまだ生きていることを思い起こさせる必要がある。
6. あの二人は実に気が合うようだ。ちょっとでも暇が出るとすぐ「一杯いきましょう」ということになる。
7. 互いに同僚同士だから、腹の探り合いはやめて、もっと誠意を持って付き合おう。
8. 会社の発展は困難な道を辿ってきた、いわゆるいばらの道だ。これからもすべてがうまくいくとは思えないが、すでに軌道に乗っていることは間違いない。
9. 彼でもそれぐらいのことは分かるだろう。いろいろな事情からそうせざるを得ないのだ。
10. あの子もこのごろ勉強するようになってきたのだから、そう二言目には勉強しろ勉強しろと言うのはやめなさい。
11. 場合によってはもはや手後れという可能性もある。こう話している間にも事態は悪化しつつあるのだ。
12. それは本来あなたが口出しすべきことではない。あなたはあくまでも第三者にすぎないということを忘れてはならない。

6 扩展阅读

「日本語大切」増加も、慣用句の誤用多く —文化庁の「国語に関する世論調査」結果から—

日本語ブームは衰える気配すらなく、今や定着しつつあるかのような昨今だが、「思いやり」や「謙遜そん」、「察し合い」といった、古くからの日本文化を重んじていることがうかがえる結果となった。文化庁が9月に発表した「平成20年度国語に関する世論調査」の結果から、日本人の日本語の使用状況や意識の実態を検証してみる。国語に関する世論調査は、文化庁が、1995年度(平成7年度)より毎年、今後の国語施策の参考とするため、現代の日本人の国語意識の変化を調べることを目的として行っている。今回は、日本語や言葉の使用に対する意識や、慣用句等の使い方などについて調べた。

調査は、2009年3月に、全国16歳以上の男女を対象に、調査員による面接聴取法によって行われ(実施: 社団法人 中央調査社)、3,480名を対象に1,954名から回答を得た。

1. 日本語の大切度

毎日使っている日本語をどの程度大切にしているかを尋ねた。「大切にしていると思う」と「余り意識したことはないが大切にしていると思う」を合わせた「大切にしている」層は76.7%と、4分の3を超える。一方、「特に大切にしてはいないと思う」と「大切にしているとは思わない」を合わせた「大切にしていない」層は4.6%と極めて低い。日本語を大切に使っている人はかなり多いといえる。

平成13年度に行った調査結果と比較すると、「大切にしている」層の割合が8ポイント増加している(図1)。さらに、年代別に見てみると、両年度とも8割強となっている60代以上を除く他のすべての年代で増加しており、特に、20代以下の増加幅が大きくなっている(16～19歳: 28ポイント、20代: 17ポイント)(図2)。

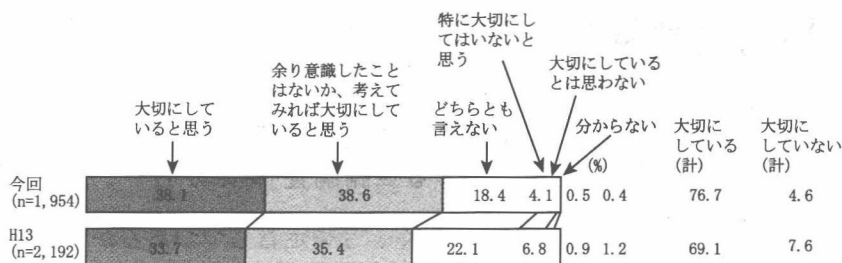


図1 日本語の大切度
(今回と平成やよ年度との比較)

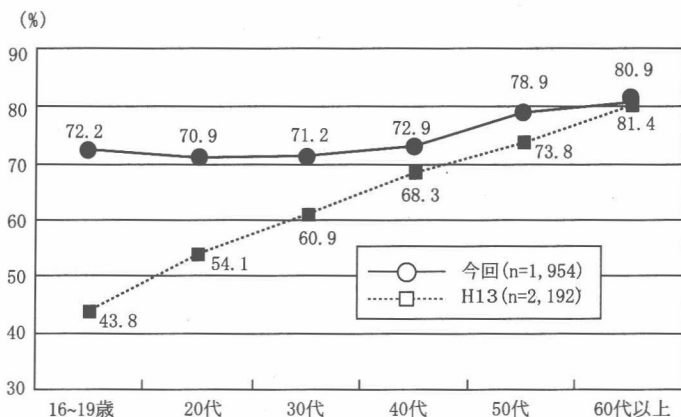


図2 日本語を“大切にしている”層の割合
(年代別・今回と平成13年度との比較)

日本語を“大切にしている”層に、大切にしている理由を尋ねた(3つまで選択可)ところ、「日本語は自分が日本人であるための根幹であるから」(49.7%)がほぼ半数で最も高く、次いで、「日本語は日本の文化そのものであり、文化全体を支えるものだから」(46.1%)、「日本語がないと日本人同士の意思疎通ができないから」(45.1%)が4割を超えている。以下、「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」(35.6%)、「日本語は美しい言葉だと思うから」(32.4%)、「日本語しかできないから」(26.8%)と続く。日本語は、日本人としての根幹であると同時に、日本文化そのもので

あるという意識が、日本語を大切にする気持ちを支えていることがいえる(図3)。

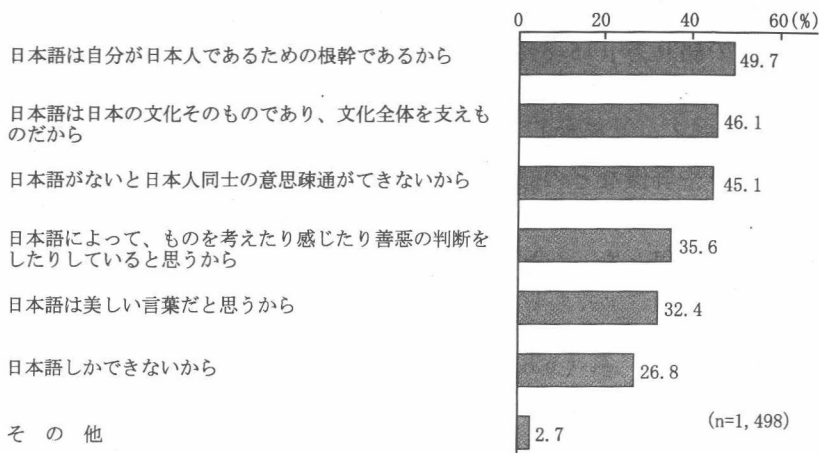


図3 日本語を大切にしている理由

2. 美しい日本語とは

日本語に対する意識に関し、続いて「美しい日本語」というものがあると思うかどうかを尋ねた。「あると思う」が87.7%と、9割に迫る高い割合で、「ないと思う」は2.5%である。日本語を大切にしている割合より、美しい日本語があると思う割合の方が高く、興味深い結果となっている(図4)。

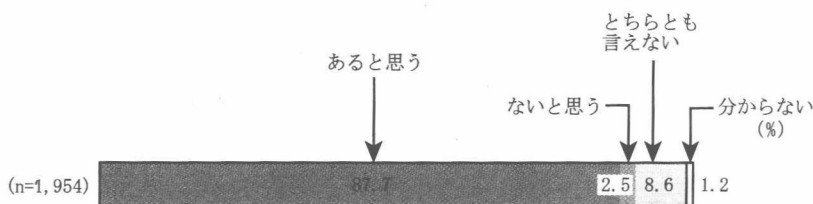


図4 「美しい日本語」があるかどうか

美しい日本語があると思うと答えた人に、あなたにとって「美しい日本語」とはどのような言葉かを尋ねたところ、「思いやりのある言葉」(62.5%)が6割を超えて最も高く、次いで、「あいさつの言葉」